

【科目情報】
授業コード
1BPA091001
科目ナンバリング
BPYNUR66005-J1
授業科目名
家族看護学
担当教員氏名
中山 美由紀、井上 敦子
開講年度・学期
2024 年度前期
曜日・コマ
集中講義
授業形態
講義
配当年次
1 年
単位数
2.0 単位
【シラバス情報】
授業概要
<p>家族看護分野において卓越した看護実践能力を修得するために設けられた家族のアセスメントに関する科目である。今日では、家族そのものが看護の対象として重要視されている。ここでは看護の対象である「家族」の意味とそのダイナミクスを理解し、家族のアセスメント、家族支援の基本について学修する。そのために家族員の疾病・障害に対する診断・治療を理解しつつ、家族看護の対象である家族を系統的に捉え、家族の健康及び生活をアセスメントするための理論およびその方法とその活用についての知識を学修する。</p>
到達目標
<p>具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族を対象とした看護ケアの実践に必要な対象の理解や看護アセスメントの基礎となる理論について理解することができる 2. 家族看護実践の基盤となる家族アセスメントモデル・ツールを理解することができる

3. 事例を通して、家族の健康と生活を適切にアセスメントし、家族を系統的に捉え、家族の健康課題を明確にすることができる

4. 家族看護実践の基盤となるアセスメントモデルを比較し、それぞれの特徴からその活用事例を考察できる

授業回

各回の授業内容

各回の事前・事後の学習内容

第1回

家族の概念

- ・ 家族の概念
- ・ 家族の価値の変遷について（家族の歴史）

予習：自己の家族観

復習：家族の概念、家族の価値の変遷について

第2回

家族の健康

- ・ 家族の健康の概念
- ・ 家族のセルフケア機能
- ・ 健康な家族

予習：健康な家族

復習：家族の健康の概念、家族のセルフケア機能

第3回

家族看護概論

家族看護の歴史、定義、目的 ・ 家族看護の歴史（発展過程）

- ・ 家族看護のニーズ
- ・ 家族看護の目的・定義について
- ・ 家族看護教育の位置づけ

予習：家族看護の発展過程

復習：家族看護教育の位置づけ

第4回

家族看護の諸理論1：家族発達理論

- ・ 家族発達理論の発展と適応

予習：家族発達理論

復習：家族発達理論の適応

第5回

家族看護の諸理論2：構造機能的アプローチ

- ・構造機能的アプローチの発展と適応

予習：構造機能的アプローチ

復習：家族の構造と機能

第6回

家族看護の諸理論3：家族システム理論

- ・家族システム論の分析・評価
- ・家族システム論の適応と限界についての討議

予習：家族システム理論

復習：家族システム理論の適応

第7回

家族看護の諸理論4：家族ストレス対処論

- ・家族ストレス対処理論の分析・評価
- ・家族ストレス対処理論の適応と限界についての討議

予習：家族ストレス対処理論

復習：家族ストレス対処理論の適応

第8回

家族の健康と生活のアセスメント

- ・家族の健康と生活の捉え方
- ・家族生活力量アセスメントの活用
- ・家族の健康と生活のアセスメントの実際

予習：家族の健康と生活のアセスメント(生活力量モデル)

復習：家族の健康のアセスメントの活用

第9回

家族の構造と機能とその評価

- ・家族構造機能の評価の役立つツール
- ・家族機能とは（家族看護研究者の捉え方から）
- ・家族機能の測定尺度
- ・家族機能の評価と看護実践について検討する

予習：エコマップの描き方、家族機能、家族機能の測定尺度

復習：家族機能の評価と看護実践

第10回

<p>家族看護アセスメントモデル 1</p> <p>フリードマンアセスメントモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤となる理論 ・ モデルの特徴と活用事例について考察する
<p>予習：フリードマンのアセスメントモデルの基盤となっている理論</p> <p>復習：フリードマンのアセスメントモデルの特徴</p>
<p>第 11 回</p>
<p>家族看護アセスメントモデル 2</p> <p>家族エンパワーメントモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤となる理論 ・ モデルの特徴と活用事例について考察する
<p>予習：家族エンパワーメントモデル</p> <p>復習：家族エンパワーメントモデルの特徴</p>
<p>第 12 回</p>
<p>家族看護アセスメントツール 3</p> <p>カルガリーアセスメントモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤となる理論 ・ モデルの特徴と活用事例について考察する
<p>予習：カルガリー家族アセスメントツールの基盤となっている理論</p> <p>復習：カルガリー家族アセスメントツールの特徴"</p>
<p>第 13 回</p>
<p>家族看護アセスメントモデル 4</p> <p>鈴木らのアセスメントツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤となる理論 ・ モデルの特徴と活用事例について考察する
<p>予習：鈴木らのアセスメントモデルの基盤となっている理論</p> <p>復習：鈴木らのアセスメントツールの特徴</p>
<p>第 14 回</p>
<p>家族看護アセスメントモデル 5</p> <p>渡辺式アセスメントモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤となる理論 ・ モデルの特徴と活用事例について考察する
<p>予習：渡辺式のアセスメントツールの基盤となっている理論</p> <p>復習：渡辺式のアセスメントツールの特徴</p>

第 15 回

家族看護アセスメントモデルの比較

- ・ 家族看護アセスメントモデルの比較
- ・ それぞれのモデルの強みと限界についての討議

予習：家族アセスメントモデルの特徴の比較

復習：それぞれのモデルの特徴から活用事例を再検討

成績評価方法

(1) 到達目標の達成度

授業目標（達成目標）の 1～4 の達成度で成績評価を行う。

単位を取得するためには、

- ・ 家族看護の諸理論について概説することができる
- ・ 家族看護アセスメントモデルの特徴を説明することができる
- ・ 活用事例から家族の健康と生活をアセスメントし、家族の健康課題を明らかにすることができる
- ・ 家族看護アセスメントモデルの活用事例を通して、それぞれのモデルの強みと限界を述べるることができる

上記の 4 点を達成することが求められる。

(2) 評価方法

- ・ 成績評価は、レポート、発表、取り組み態度等を総合して行う

履修上の注意

授業はテーマについて討議をする形式である。事前学習として、授業のテーマ、論点に関する文献をまとめ、討議する準備が必要となる。さらに課題に対するプレゼンテーションを行うために授業時間外に学習する必要がある。

教科書

特に指定しない

参考文献

Marilyn M. Friedman (2003) : Family nursing –Research, Theory, & Practice (5thed.).
Appleton & Lange.

Marilyn M. Friedman ; 野嶋佐由美監訳 (1993) ; 家族看護学 : 理論とアセスメント. へるす出版.

Lorraine M. Wright, Maureen Leahey. (2013) : Nurses and Families: a guide to family assessment and intervention: 6th: Philadelphia. F.A. Davis.

鈴木和子、渡辺裕子著（2019）：家族看護学：理論と実践，第5版，日本看護協会出版会
野嶋佐由美監修（2005）：家族エンパワーメントをもたらす看護実践、へるす出版
その他については授業中に掲示する

オフィスアワー

- 学内のみ公開 / Display only on campus -

教員への連絡方法（メールアドレス等）

- 学内のみ公開 / Display only on campus -